

釧路湿原国立公園

釧路湿原は、1987 年 7 月に日本の 28 番目の国立公園になりました。公園の面積は 28,788 ヘクタールで、ヨシとスゲの茂る広大な湿原、蛇行する川が流れ、湿原の東側には海跡湖があり、丘陵が湿原を取り巻いています。この国立公園は日本最大の湿原で、かつては旧釧路湾の一部でした。海が後退したとき、湾の入り口に砂が堆積し、海から切り離された部分が海跡湖となりました。過去 3000 年の間に、泥と砂の上に泥炭が堆積し、今日見られる環境が形成されました。湿原には、タンチョウ、シマフクロウ、イトウ、キタサンショウウオなど、多くの希少種が生息しており、湿原周囲の歩道や展望台から観察することができます。公園では、春にはタネツケバナ、夏にはハナショウブ、秋にはタデなどの、様々な植物を観察することができます。冬には、少量の雪が高原に蓄積し、さらに独特で美しい景色を作り出します。